

大規模災害を想定した  
対応訓練の実施

## contents

- ・無菌室の増床について
- ・地域連携研修会の報告と次回告知

## 報告

# 大規模災害を想定した 対応訓練を実施しました

当院では毎年10月に、県内で大規模災害が発生したことを想定した対応訓練を院内全体で実施しています。今年度は、平日早朝（時間外）の災害発災を想定し、新たな訓練を行いました。また、昨年に引き続き当院職員だけでなく、看護学生、消防職員、他施設DMAT隊員にご協力いただくなど、総勢約400名で10月6日（土）に実施いたしました。

### ▼ 訓練のタイムスケジュール

- 07:30** 県内にて震度7の地震が発生
- 07:35** 救命救急センターカンファレンスルームに暫定本部を設置
- 08:30** 災害対策本部の立ち上げ  
→ 暫定本部から移行
- 08:45** 第1回 災害対策本部会議
- 09:30** 被災者の来院開始（トリアージ開始）  
HOT患者、透析患者、妊婦の来院・受入れ  
DMAT(Disaster Medical Assistance Team)の支援要請  
職員の登院状況の把握を実施  
備蓄食料の運搬を実施  
(地下1階備蓄倉庫から7B病棟へ)  
山梨大学医学部附属病院DMAT到着  
→ DMAT活動拠点本部の設置  
峡南医療センター富士川病院DMAT到着  
→ 災対本部・赤トリアージゾーンの支援
- 10:00** 第2回 災害対策本部会議
- 11:00** 第3回 災害対策本部会議
- 11:20** 訓練終了

### ▼ 訓練項目

- ・時間外での発災と暫定本部の設置
- ・暫定本部から本部への移行
- ・来院患者のトリアージと被災者の診療
- ・ベッドコントロール、入院患者受入れ
- ・登院した職員の把握
- ・透析患者、妊婦、新生児の受入れ
- ・HOT(在宅酸素療法)センターの開設
- ・他施設DMAT隊員の受入れ
- ・DMAT活動拠点本部の設置
- ・エレベータ使用不可時を想定した備蓄食料の運搬と入院患者の病棟移動
- ・災害ボランティアの受付と活用
- ・EMIS(広域災害救急医療情報システム)の入力 など

### 当日の 訓練の様子



暫定本部での活動の様子



災害対策本部会議



救急搬送患者のトリアージ



DMAT隊員の活動の様子

来年度以降も引き続き訓練を実施していくとともに、時代のニーズや変化に対応した訓練をおこなっていきたいと考えています。また、DMATの受援訓練や災害ボランティアの受入れ訓練も引き続き実施していく予定ですので、是非訓練にご協力ください。



地方独立行政法人山梨県立病院機構

## 山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

### 患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1

TEL. (直通) 055-253-9000 / FAX. (直通) 055-251-7733

# 日本造血細胞移植学会非血縁者間 造血細胞移植認定施設での 最善の移植治療を



血液内科部長

飯野 昌樹

## 最新の無菌室で快適な移植医療を

Comfortable transplant medical care in the latest aseptic room

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等いわゆる「血液がん」の進歩は目覚ましく、早期に適切な治療を行うことで、多くの患者さんで治療や長期生存が見込めるようになってきました。当院は、県内最多の症例数を診療し、豊富な治療経験とエビデンスに基づいた最新治療を県民の皆様提供できるよう努力しています(図1)。

CHECK  
1

## 造血幹細胞移植

Hematopoietic stem cell transplantation

造血幹細胞移植は、難治性急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、再生不良性貧血、初発多発性骨髄腫における標準治療となっており造血器腫瘍の治療法として必要不可欠の治療法です。造血幹細胞移植には、自家移植(患者自身の造血幹細胞をもどす移植)、同種移植(血縁者または非血縁者から造血幹細胞をもらう移植)、骨髄移植、臍帯血移植、末梢血幹細胞移植がありますが(表1)、当院では、県内で完結できる医療を目指し、血液疾患患者のベストな移植タイミングを逃すことなく迅速にあらゆるタイプの造血幹細胞移植が行える体制が整っており、2004年からこれまでに造血幹細胞移植を110例以上行ってきました(図1)。

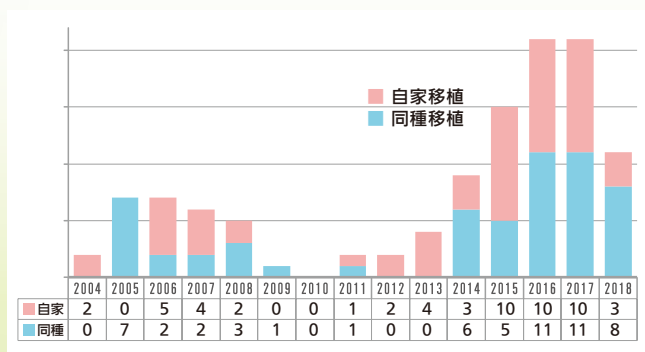


図1：年間造血幹細胞移植数

	自家造血幹細胞移植 (患者自身)	同種造血幹細胞移植 (血縁・非血縁)
骨髄	△	○
末梢血	○	△~X
臍帯血	△~X	○
治療関連死亡率	5%	10~20%

○：一般的に行われる △：ほとんど行われない X：行うことはまれ

表1：造血幹細胞移植の種類

移植治療は、リスクの高い治療法で患者さんの身体への負担も多く、移植関連死亡も一般的に1-2割の頻度で見られる治療法ですが、当院では治療成績を上げるべく医師のみならず看護師、薬剤師等多職種一丸となって一例一例患者さんのご希望に沿うよう治療に当たっています。近年では、60代後半の高齢症例や臍帯血移植、ハプロ移植など難易度の高い移植も成功させ、県民のニーズにこたえるようにしています。また、当院は日本造血細胞移植学会の非血縁者間造血細胞移植認定施設であり、さらに同学会の非血縁者間骨髄採取認定施設として、県内や近県のボランティア骨髄提供ドナーの方からの骨髄採取をこれまでに7件行い、全国各地の移植施設へ提供し、山梨県民の骨髄が他県の非血縁者間造血幹細胞移植を待つ患者さんのもとに届けられています。



## CHECK 2

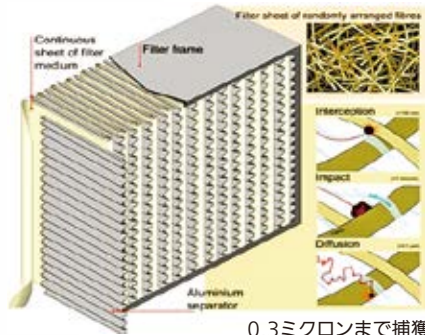
### 防護環境（無菌室）

#### Protective environment (sterile room)

白血病や、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群などの高度の免疫不全状態にある骨髄不全患者さんを治療するためには、真菌感染等を防ぐ防護環境（無菌室）が欠かせません。

易感染性の患者さんの感染経路には内因性（患者さん自身に常在する病原体によるもの）と外因性に分けられますが、外因性感染は、さらに接触感染と環境感染に分類されます。環境感染は、空気中の病原体や床・壁に付着した病原体からの感染を指しますが、防護環境なしでは、この空気中の病原体からの感染である環境感染を防ぐことはできません。防護環境での治療により、呼吸器感染症の発症を低く抑えることができます。

当院では、今年10月に県内初となる防護環境9床（個室）が整備されました。HEPA（high efficiency particulate air）フィルターと層流（laminar air flow）技術により、空中の飛散した真菌等の病原体を除去し、肺炎等感染症の合併を予防します（図2）。白血球減少時であっても、患者さんの行動は個室室内に制限されず、防護環境内の廊下の歩行も可能で、ご家族との面会も容易であり精神的ストレスや体力の低下を防ぐことができます。当院では、このように可能な限り自然に近い生活を送れるよう設計された防護環境内で患者さんが治療期間中過ごせるようになりました（図3、4、5）。



0.3ミクロンまで捕獲

図2：HEPA フィルター

#### ISO クラス 5

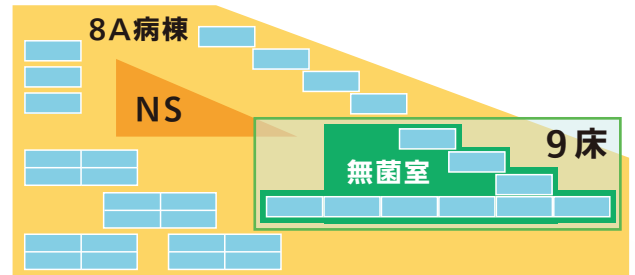
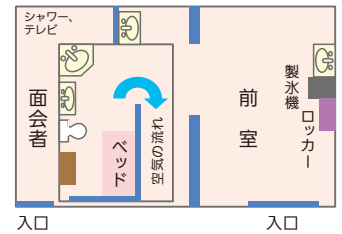


図3：病棟内の防護環境エリア

#### ISO クラス 6



図4：防護環境（無菌室）

#### ISO クラス 7



図5：防護環境（廊下）

### すべては患者さんのために

一昔前までは、造血幹細胞移植は東京の病院でしか受けられない、体力的にも経済的にも山梨県民にとってはハードルの高い特殊な治療でした。しかし、現在の血液疾患治療において移植は必要不可欠の治療であり、身近な治療となってきています。診断から治療、長期フォローまで地元でのシームレスな治療が可能となっています。これからも最高レベルの移植医療を提供できるよう日々研鑽してまいります。



7.31 TUE

「高齢者の皮膚を守る  
～在宅でのスキンケア対策～」

平成30年7月31日(火)、当院多目的ホールにて地域連携研修会を開催しました。

当院の志村 友紀皮膚・排泄ケア認定看護師、皮膚科 塚本 克彦医師による、スライドを用いた実践的な内容の講演を行いました。

ご参加いただいた方々から「高齢者のスキンケアが多いため、基礎的知識を深めることが出来た」「在宅でのスキンケアの方の対応方法を学べて良かった」との感想をいただきました。



8.23 THU

「風邪のみかた」

平成30年8月23日(木)、当院多目的ホールにて地域連携研修会を開催しました。

当院の総合診療科 秋山 裕太郎医師、日向 佑樹医師による風邪と抗菌薬の講演を行いました。

院外32名、院内35名の方に出席していただき、抗菌薬の処方に関する患者さんへの説明の仕方や風邪症状の説明などがあり「興味深かった」「わかりやすかった」との声が聴かれました。



地域連携研修会が  
開催されました

9.26 WED

「頸部痛・上肢痛を考える」

平成30年9月26日(水)、当院多目的ホールにて地域連携研修会を開催しました。

当院の外科系第二診療統括部長・整形外科 千野 孔三医師により、痛みの定義・頸部・上肢痛の診断アプローチについて、地域の先生方ともに地域連携をする上での学習と意見交換が行われました。

ご参加いただいた方々から活発な質問や意見があげられ、有意義な研修会となりました。



次回研修会のご案内

■ 第148回 山梨周産期医療懇話会

2018  
日時:12月13日(木) / 19:00~20:15

場所:山梨県立中央病院 2F 多目的ホール  
甲府市富士見1-1-1 055-253-7111

題名:『急性期医療に忘れてはならない新生児とのコミュニケーションと心のモニタリング』

講師:埼玉医科大学総合医療センター  
総合周産期母子医療センター新生児科  
教授 側島 久典 医師

研修会の情報はホームページでもご案内しています。併せてご覧下さい。  
<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

1

かかりつけの  
医院を受診

紹介状をもらってください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書  
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に  
準備して  
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書  
③保険証 ④当院の診察券  
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)